

⑤ 碓川豊さんの講演を聞いて

水田 敏彦

(秋田大学地方創生センター)

2019年11月23日に開催されました災害文化研究のスタディツアーに参加いたしました。このスタディツアーは釜石市郷土資料館、鶴住居の常楽寺やトモスなどを訪れましたが、その中で、大槌町の吉祥寺での碓川豊氏のご講話についてご報告いたします。

私にとって大槌町への訪問は、2016年9月11日から3日間にわたって大槌町中央公民館で開催された歴史地震研究会以来3年ぶりとなりました。また、話は脇道にそれますが会場の吉祥寺は実家の近くに同名のお寺（北九州市八幡西区：藤の名所として地元では親しまれています）があり、親近感を持って臨むことができました。会場の吉祥寺は井上ひさし氏の小説『吉里吉里人』で知られる大槌町吉里吉里の山麓に建立され、外に出ると吉里吉里の町や船越湾を見渡すことができました。町並みや海は静かで落ち着いており、震災を経験していない人はここが8年8か月前に被災し復興半ばであることを気づかないのではと思いました。

ご講話は吉祥寺の本堂で「逆境（ゼロ）からのまちづくり－復興のエンジンは住民」と題して行われました。大槌町は2011年東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）で死者803人、行方不明者437人、家屋倒壊3717棟などの被害が生じ（碓川氏の資料による）、町長を含め多くの職員も犠牲となっています。そして、被災直後の2011年8月末に町長となった碓川氏が試行錯誤をしながらどのように町政を担ったのか。大槌町復興計画のコンセプト「海が見える、つい散歩したくなる、こだわりのある、美しいまち」について、貴重な経験を具体的にご紹介いただき、大変勉強になりました。和やかな雰囲気ではありましたが、これまで参加した研究集会では未だ感じたことのない迫力と緊張感で心を奪われました。

最後に、今回のスタディツアーを主催していただきました皆様、そして解説していただいた先生方にお礼を申し上げます。大槌町の一日も早い震災からの復興を心よりお祈り申し上げます。



吉祥寺での碓川さんの講演



講演に聞き入る